

令和4年度持続可能なみやぎづくりを実現するための環境教育推進事業 事業実績書

都城市立祝吉中学校

事業の実施時期：補助を受けた日から令和5年1月27日

活動の概要

本校の3年生の中から、SDGsプロジェクトメンバー（17名）を組織し、SDGsに関する取組を企画・提案し、生徒会等と連携して、全校で活動を行った。具体的には、地域の複合施設への見学・研修、総合的な学習の時間における商品開発プロジェクト、地域のゴミ拾い活動、講演、調べ学習および参観日での発表、節水活動や使い捨てカイロの回収等、様々な活動を実践した。参観日や学校HPを活用し、保護者や地域に積極的に発信した。

SDGsの視点：「11 住み続けられるまちづくりを」、「12 つくる責任 つかう責任」

1 学校の概要

本校においては、「気づく」「考える」「実践する」という校訓の下、「豊かな心を持ち、確かな学力と体力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、自立できる生徒の育成」という教育目標のもと教育活動を行っている。

本校は近くに大型ショッピングモールや住宅地を抱え、都城駅も近く、生徒数600名弱の大規模校である。

日々、整然と授業が展開され、成績は地区トップクラスを維持している。ICTの活用も盛んである。しかし、個々には学力差が生じ、日々の授業において、学習に対する興味・関心が持てない生徒もいる。生徒会活動は活発で、自主的・自発的な活動が多くみられる。最近ではSDGsに関する取組も3年生を中心に積極的に行っている。更に、部活動においては、部活動数も多く、各種大会で実績をあげるなど、盛んに活動が行われている。

本校のこれまでの環境教育に関する取組については、清掃において、「心を清め、心を磨き、心を鍛える」という三心清掃三訓を立て、目標を持って一心不乱に清掃に取り組む活動を行っている。また、学級花壇の整備の活動も活発で、美化委員会を中心として、各学級の花壇に多くの花が綺麗に植えられている。

2 活動のねらい

本校の生徒がSDGsや4Rに関する興味・関心を高め、実生活に生かそうとする実践力を身に付けることをねらいとして活動を行った。そのために、校内研究や総合的な学習の時間、生徒会活動に環境教育の視点を踏まえた活動を計画し、実行した。特に、SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」と「12 つくる責任 つかう責任」に視点をおいた。

地域や保護者と連携し、参観日等の機会を活用して、SDGsや4Rに関する活動に取り組んだ。更に、学校ホームページによる発信や啓発、ICTを活用した活動も積極的に行った。

3 活動内容

(1) 地域の複合施設「TERRASTA」での研修

3学年では総合的な学習の時間で国際連合が掲げている「SDGs（持続可能な開発目標）」をテーマに学習を進めてきた。3学年では、SDGsプロジェクトメンバー（SDGs実行委員）を組織し、「SDGs Action 2022～私たちが創る未来予想図～」というスローガンを掲げた。

SDGs実行委員会を中心に様々な取組を計画し、実践した。6月に、都城市で4RやSDGsに関する取組を積極的に行っている複

合施設「TERRASTA」にて、その設計や運営に関わっている方々（主にUDS株式会社）を講師として研修会を実施した。研修では、ホテルの部屋が都城工業高校インテリア科の生徒の案で作られていることや、アメニティは地域の廃材や火山灰を活用して作られていること、そして、地域を活性化するための取組について詳しく学ぶことができた。



(2) 商品開発プロジェクト

研修で学んだことを生かして、SDGs実行委員が学年全体へ企画・提案したのが「商品開発プロジェクト」であった。

SDGs目標番号12や4Rの視点で、身の回りでいらなくなったものを再利用した商品開発を企画から販売まで包括的に行った。

各学級でグループに分かれてエコバッグや小物入れなどを様々なアイデアを出しながら作り上げた。完成した商品は、参観日で3年生の保護者へ販売した。商品の売上金額は、10382円で、売上についてはユニセフへ寄付することと、GoGreenGroup（企業）が行っている「使い捨てカイロで世界の水をきれいにする活動」に使い捨てカイロを送るときの送料として活用した。



(3) 地域のゴミ拾い活動

SDGs目標番号11の視点で、SDGs実行委員と生徒会JRC委員会とのタイアップ活動として、全校で朝のゴミ拾い活動を実施した。全校生徒が、朝、登校する途中で地

域に落ちているゴミを拾い集め、そのゴミをSDGs実行委員とJRC委員が生徒玄関で回収した。集まったゴミについては、SDGs実行委員が分別を行い、適切に処分した。

この活動で、地域の方々から直接褒められる生徒もいた。「またしたい。」という生徒の声により、再度行った。このように、ゴミに目を向ける意識が学校全体で高まった。



(4) 講演会

12月にこれまでのまとめとして、NTTデータ（企業）の吉田淳一さんにSDGsをテーマとして講話を行っていただいた。

吉田さんによる講話の中では、世界で行われているSDGsに関する取組の紹介と提案があった。更に、講話の後半では、一人一人がアイデアを考え、意見交流会を実施した。個人でアイデアシートを作成し、SDGsに関するアイデアを自由に創造させ、アイデア発表会（グループ→学級全体→学年全体）を行った。生徒一人一人が創造力を働かせ、様々な視点からSDGsを実現するためのアイデアを考え、発表することができた。生徒がある程度の知識を習得した上での講話だったため、生徒にとって有意義な時間となった。



(5) 調べ学習

17個の持続可能な開発目標の中で自分が興味をもった目標を選択し、インターネット等を使い、調べ学習を行った。SDGsについて表面的に理解はしているものの、多面的

・多角的に捉え、課題意識をもつことができ
ていない生徒が少なくない。そのため、なぜ
その目標が必要とされているのか、その目標
に対する社会状況はどのようなものなのか、
日本国内ではどのような問題が起きているの
か、自分たちが住む都城市の企業ではどのよ
うな取組が行われているかなどを課題として
提示し、Google スライドへまとめる活動を行
った。Google スライドを作成する際は、グル
ープで共同編集機能を使ってコミュニケーション
を図りながら行った。生徒自身が課題意
識をもち、調べ学習を行うことで、SDG s
に対する興味・関心を高めることができた。

なお、調べた内容については、参観日の総
合的な学習の時間で、「個人→グループ→全
体」でICTを活用して発表会を行った。保
護者の方々にも多数参観していただき、SD
G s について親子で考えることができた。



(6) 生徒会活動との連携や学校HPによる発信

生徒会、特に、JRC委員会と連携し、全学
級の水を入れるバケツに赤線を入れ水の使用量
を節約する節水活動や使い捨てカイロを全校生
徒から集め、GoGreenGroup（企業）が行う「使
い捨てカイロで世界の水をきれいにする活動」
に寄付すること、また、募金活動等を行った。

(1)～(6)の活動については、その都度、学校
ホームページを活用して積極的に発信した。2
月には後輩の2年生や地域の小学校に向けて1
年間の活動に関する発表会を行う予定である。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 生徒が課題意識をもってSDG s や4 R
の活動に取り組む姿勢が見られた。
- ・ 環境問題に対して、自分が1つの行動を
起こすことで、社会全体を変えることがで
けるといった意識向上にもつながった。
- ・ Google の様々な機能を活用することによ
って生徒のICT活用能力が高まった。
- ・ 活動の企画・運営において、教師から働
きかけるのではなく、SDG s 実行委員を
中心とした主体的な取組が見られた。
- ・ 参観日や学校HPを活用して、SDG s
の取組について、保護者や地域に積極的に
発信することができた。
- ・ 本校の総合的な学習の時間の年間計画の
中にSDG s についての学習を位置づけ、
来年度以降も継続してSDG s の学習を続
けていけるように1年間のカリキュラムを
作成し、提案することができた。
- ・ SDG s に関する様々な活動を学校ホー
ムページで発信したことがきっかけで、株
式会社童夢より取材を受け、本校の活動が
書籍に掲載された。更に、金沢工業大学S
DG s イノベーション教育拠点校運営事務
局からも連絡があり、SDG s についての
大学や全国小中学校の取組を紹介・提案し
てもらい、活動に生かすことができた。

(2) 課題

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点
から、校内に限った活動が多かった。アフ
ターコロナでは、自分たちが住んでいる地
域の企業や外部人材と積極的に連携し、活
動を企画・実践することが求められる。

<p>学校名 : 都城市立祝吉中学校 住 所 : 都城市千町4962番地 電話番号 : 0986-22-0697 E-mail : iwayoshi-j01@miyazaki-c.ed.jp</p>
